

～地域とともにある学校づくりをめざして～

寿都町コミュニティ・スクールだより

第17号 令和元年12月4日 発行
発行者 寿都町学校運営協議会連絡会

寿都町コミュニティ・スクール交流会を開催しました

11月5日(火)、町内の学校運営協議会(保護者や地域住民が学校運営に参画する組織)委員と学校支援ボランティア、教職員、町長、教育長など58名が集まり、コミュニティ・スクール(CS)交流会を開催しました。

交流会の前半には、寿都町の小中高連携「英語ふるさとアンテナショップ」の活動でご協力をいただいている〇〇リゾートの〇さんより講話をいただき、後半は参加者がグループに分かれて熟議(意見交流)を行いました。

●講話 〇〇〇〇会社 〇 〇〇〇さん●

テレマークスキー元日本代表で、引退後にアスリートと地域をつなぐ活動をしていた〇さん。「子どもたちにたくさんの体験をさせてあげたい」という強い思いをお話していただきました。プロフェッショナルとの関わりから子どもたちが心身ともに成長することや、継続して関わることの大切さを参加者のみなさんと共有しました。



●熟議(意見交換)のテーマ 「子どもと地域のつながりを深めるためには」●

子どもたちと関わる学校・保護者・地域それぞれの視点で、交流を行いました。各班で「子どもと地域のつながりを深めるためには」のテーマから発想を広げ、「大切なことは何か」「なぜ子どもと地域のつながりが深まらないか」など、寿都の子どもたちに対する熱い気持ちをお話しいただきました。

●熟議(意見交換)の発表より●

- ・地域の魅力を伝えるために、私たち大人が地域の魅力を十分に理解することが重要。
- ・外の世界に触れることで、寿都のよさを再確認したり、足りない部分に気付くことができる。外の世界に触れていくことが大事。
- ・「もっと子どもたちと関わりたい」という地域の方はいると思うので、その方たちをどう発掘していくかが課題。



- ・子どもが減り、PTAも縮小する現状があるので、地域とつながることで新しい発想が生まれる。子どもたちは色々な発想を持っている。その発想をサポートしてあげたい。
- ・最近では子どもに声をかけても、不審者扱いをされてしまう不安がある。地域と子どもたちの協働の場を作ることが必要になってくる。
- ・その人にしかできない、その道のプロフェッショナルが寿都にはたくさんいる。カッコいい大人たちがたくさんいるということ子どもたちに伝えたい。
- ・自分たちの役割を持って、気付きを提案していけば、未来戦略がまだあるはず！



●交流会参加者の声 アンケート結果から●



ご参加ありがとうございました。

- ・肩ひじをはらず楽しく話ができるのも、交流会の良さ・意義だと思います。(CS 委員)
- ・あらためて地域の力に支えられているありがたさを感じる機会となりました。(教職員)
- ・日頃から子どもと地域との関わりを大切にしたいと思いました。(学校支援ボランティア)
- ・教師自身が人とつながり、アンテナを張る姿勢も必要なのだと実感しました。(教職員)
- ・今回の発表内容を、いかに共有し発信するかが今後の課題となると思います。(CS 委員)

日頃から…

地域とともにある学校づくりをめざして 寿都小学校運営協議会委員 より

CSがスタートしてから、外に出て行う体験や外部講師を招いて行う授業が増え、子どもたちの職業に対するイメージも湧きやすくなって選択肢が増えるのではないかと感じます。

また、体験後に子どもから「今日〇〇の〇〇さんに声かけられたよ」と聞くこともあり、これがまさにCSの目指す学校・保護者・地域とのつながりを深める一步になっているのではないかと感じています。

今後も継続し、より良いつながりを作っていければと思います。

今後のおたよりでも委員からのひとことを伝えていきます。

コミュニティ・スクールについてのお問合せは寿都町教育委員会(TEL62-2100)までお願いします。